



医療法人 警和会 大阪警察病院

〒543-0035 大阪市天王寺区北山町10-31 TEL:06-6771-6051 (代表)

<http://www.oph.gr.jp/>

●開設/昭和12年9月 ●許可病床数:580床



【活用のポイント】

- NFCとバーコード併用
- 電子カルテ連携
- 多機能

導入機種: AsReader ASR-0240D

導入時期: 2018年1月



看護部 副部長 仁科典子様

いち早く、個人識別にICカードとパスワードを導入されていた大阪警察病院様。今回ベッドサイドでの入力用端末としてAsReaderコンボタイプをご導入頂くことで、三点認証はもとより、体温や脈拍などのバイタルサインの自動取得にもNFCを活用されています。

情報管理課と看護部が密接に連携することで、看護現場の要望を色濃く反映したシステムへとリニューアルされました。

三点認証、バイタルサイン自動取得、フローシート IN/OUT 入力、医療機器登録、写真 etc. AsReader導入で看護業務効率化とインシデント削減を実現。(NFC+バーコード)



課題

- 電子カルテの入ったパソコンをワゴンに載せてベッドサイドへ赴き、バーコードリーダーで三点認証するシステムであったが、病室や通路の狭さも相まって、使いにくさや夜間の騒音が問題になっていた。
- 上記を踏まえて、以前からモバイルを活用したいという願望は持っていたが、読み取り精度やレスポンス面で期待に応えるハンディターミナルに出会えなかった。

ソリューション

- パソコンを持たずにAsReaderひとつで病室へ。狭い相部屋でもスムーズに三点認証。手の向きを気にせず患者リストバンドの2次元コードを読み取り。
- 三点認証対象は、採血管、注射、輸血。
- NFCとバーコード一体のコンボタイプなので、患者認証に引き続いて体温や血圧、SpO₂などのバイタルサインを機器からNFCを使って読み取り、電子カルテへ自動転送。
- 輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器、生体モニターの使用状況を患者と紐付けて電子カルテへ転送。

効果

- 有線バーコードリーダーが届かないので病室での患者認証できない、といった事象がなくなり、三点認証の実施率がほぼ100%に!
- ワゴンを押して病室に入っていくことがなくなり、夜間の騒音を気にせず点滴交換が可能に。
- バイタルサインの自動取得・転送で誤入力を防止。

インタビュー動画はこちら!

<https://asreader.jp/movies/>



お手持ちの携帯電話やスマートフォンのカメラで、こちらのQRコードを読み込んでください。

AsReader.
ASR-0240D



バーコード・2次元コードのリーダーに加え、NFCリーダーも一体になったコンボタイプ。

病棟では化学療法を受けてる患者さんが多いんですね。10分毎とか20分毎にバイタルサインを測定して、そのたびに電子カルテに入力するという操作が多いのですが、やはりモバイル一つ片手に持って患者さんのもとへ行って測定したらすぐそこで入力できるというのが、凄く時間短縮になって仲間もみんな喜んでます。



働く
スタッフ
の声

写真に関して、今までは専用のカメラを持って行って、褥瘡などを撮影した後にパソコンに有線で繋いで取り込みという形をとってたんですけど、今は患者さんのところでモバイルを使用して写真を撮ることで、直接画像が転送されますので、凄くスムーズに記録作業が行えます。

【この導入事例は、2018年6月現在の情報に基づいています】



株式会社アスタリスク

本社: 〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-6-16 新大阪大日ビル201 Tel:050-5536-1185 Fax:06-6886-1114

東京事業所: 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-35-7 水天宮HSビル2F Tel:050-5830-5393

<https://www.asx.co.jp> <https://asreader.jp>